

## 会議録

会議の名称	西東京市総合計画策定審議会 第9回会議
開催日時	平成24年9月1日（土曜日）午後3時00分から5時00分まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎3階庁議室
出席者	奥田明子委員、小西和信委員、坂口利彦委員、篠通恵委員、濱野雅章委員、望月利将委員、山田治徳委員、横山順一郎委員、和田清美会長（50音順） 事務局：池田企画部長、森本企画政策課長、柴原財政課長、前田企画部主幹、藤澤企画政策課主査、長塚企画政策課主査、佐野企画政策課主査、原島企画政策課主査、坂口主事 （欠席）大河内一紀委員、小林和彦委員、蓮見一夫委員
議題	1 後期基本計画点検調査について（報告） 2 まちづくりシンポジウムについて（報告） 3 まちづくり市民ワークショップについて（報告） 4 基本構想の第一次素案について
会議資料の名称	資料1 後期基本計画点検調査取りまとめ 資料2 まちづくりシンポジウム記録 資料3-1 まちづくり市民ワークショップ記録 資料3-2 まちづくり子どもワークショップ記録 資料4-1 総合計画策定のための市民参加における市民意見の把握 資料4-2 総合計画策定のための市民参加における主な意見 資料4-3 基本構想・基本計画の章立てのイメージ
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>○和田会長：</p> <p>本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。本日は事前に大河内委員、小林委員、蓮見委員から欠席のご連絡をいただいております。また、濱野委員、篠委員から遅参のご連絡をいただいております。それでは、事務局から配布資料のご説明をお願いします。</p> <p>○事務局：</p> <p>配布資料の確認</p> <p>本日お一人傍聴をされるということでございます。傍聴要領に基づき、傍聴を認めます。</p> <p>議題に入る前に、本日の会議の進め方について皆さんからご意見を伺えればと思っております。これより、次第にございますように、この間の取組みのご報告をしていただくことになっております。5月に第8回審議会会議を開催して以降、シンポジウムやワークショップ等市民参加手法を実施し、多くの委員の皆様にもご参加をいただいたところでございます。そして、その様々なこういった参加の手法にご参加をいただきながら、委員の皆様には直接市民の声に触れていただいたかと思っております。4月の審議会でお示しいたしました今年度の会議予定によりますと、本日と次回が基本構想素案の検討というスケジュールになっております。基本構</p>	

想という将来ビジョンの審議にあたり、それぞれ皆さんシンポジウムやワークショップにご参加いただいて、その折に多くの市民の皆さんの意見をお聞きしているかと存じます。それぞれお感じになっていらっしゃる事があるだろうというようにも考えております。

従いまして、以下、次第に従い事務局から報告事項をご説明いただいた後、それぞれご質問の時間を設けますけれども、議題の4の説明が終わったところで、最後に皆さんの感想を含めた意見交換を行いまして、それを基本構想案に反映するようなことで、皆さんのご意見をお伺いできたらと思っております。その結果として合意点が得られればいいのかというふうに思いますが、現段階ではそのような意見交換をしながら、構想案に盛り込むような意見の集約ができたらと考えております。如何でしょうか。こういう形で進めさせていただければ大変ありがたいのですけれども。よろしいですかね。はい。それでは、今のようなことで進めさせていただきます。

#### 議題1 後期基本計画点検調査について（報告）

○和田会長：

後期基本計画点検調査について事務局からご報告をお願いいたします。

○事務局：

（資料1に沿って説明）

○和田会長：

後期基本計画点検調査とりまとめというのは、担当各課での調査結果をこういう形でとりまとめているということでございます。ご質問でございますでしょうか。次回に実質的な基本構想についての話になるのかと思っておりますので、良く読んでいただきながら把握していただけたらと思います。この段階でご質問、表の読み方であるとか、具体的な何かこの点はということがございましたら、是非ご質問をしていただければと思います。

G委員：

調査概要の内容は事務局が考えられたものでしょうか、それとも富士通総研さんが考えられたものでしょうか。

○事務局：

第2回審議会に案として出させていただきましたが、それを踏まえ市の方で調査の目的といいますか、主に計画に関する内容を中心に、担当課に調査をさせていただくということで、事務局の方で最終的な内容を固めさせていただいたものです。

G委員：

調査のべき論の話になってしまうのですが、この資料1の最初の4行のうちの3行目、この点検調査とりまとめを何のためにやったかということについて、3行目ですね、次期総合計画の基本計画の施策に反映すべき現状と課題、取組み、事業を整理したものだとあります。次期総合計画の基本計画の中身というのは、いわゆるこの基本施策が定まってから作られるべきものであって、基本構想ができて基本計画があるわけで、その中で具体的な施策なり事業がでてくる訳ですから、この段階で次期総合計画の基本計画の施策に反映すべき現状と課題というのはいいと思うのですよ。ただ、この取組みというのは一歩下がっていいのかと思っておりますが、事業まで書いてしまうと如何なものかなと。事業というのはあくまで現在やっている事であって、これから策定する総合計画はこれからやるべき事で、これまでやってきた事とこれからやるべき事とは違う。であるにも関わらず、こういう書き方をしてしまうと、いわゆる従来型の前例主義的な計画になってしまうのではないかと。ですから、ただ実務上そういうやり方をやっているのはわかりますが、こういったところでこういった形で明記するのは如何なものかなと。ち

よっと順番が違うのではないか。

○事務局：

そうですね。委員がおっしゃられたとおりだと思います。調査の内容として反映するという表現にさせていただいていますが、追加が必要と考える取組みと事業ということで、一体で調査をしたもので、それを実際に反映させていくかどうかということも含めまして、確実に反映するというのではなくて、この審議会でご検討いただければと思います。

**B委員：**

似たような考え方なのですけれども、これから私たちが検討していく上で、現状がどうなっているかという、特に前の計画をどのように実行し、どのような点が足りないかという点について整理した基礎資料としてはありがたいものだと思いますし、今後とも活用させていただくことになると思いますが、やはりG委員がおっしゃられたように、これはやはり前の計画の枠組ですから、この枠組の中で考えられる事の枠組のひとつぐらいのことであると思います。ですから、まったく新しい角度からこの事業をどうしたらいいかという観点からは各課からは出てこない。例えば、この追加すべきというのは枠組の中だけで言っている訳ですから、私の土地勘で言えば新しい土地勘を作るべきだとかというものは出てこない。この枠からはじけるようなものがむしろ必要なのに。まあ、それは改めて調査しないといけないものではないかと考えておりますけれども、先行してやっていただいたこの調査についてはそこがちょっと不満かなと思っております。

○和田会長：

この資料1の文章は変えることは可能ですか。そうすると、取組みと事業というより現状と課題を整理したという形の方がいいですよ。これは、まさに基礎資料とする扱いですよね。

○事務局：

そうです。先ほどの資料1の調査概要のところですが、最初に書いております文章のところの下から2段目のところですが、次期総合計画の基本計画の施策に反映すべき現状と課題までを残しまして、取組みと事業につきましては、調査はしておりますがあくまで参考という形で考えておりますので、「現状と課題を整理したもので、調査概要は以下のとおりです。」したいと思います。

○和田会長：

基礎資料とすべきではありませんか。次期総合計画の基礎資料としてと。

**B委員：**

現行計画の現状およびそこで出てきた課題くらいにしておいた方がいいですよ。

○和田会長：

よろしいですか。今の点について確認しておいてもらえますか。

○事務局：

わかりました。

○和田会長：

如何でしょうか。後で文章については議事録なりで確認して、もうちょっと練っていただい。ほかによろしいですか。では、皆さん精査していただいて、まさに基礎資料としてお読みいただきたいと思います。この議題についてはよろしいでしょうか。

## 議題2 まちづくりシンポジウムについて（報告）

和田会長：

続きまして議題の2、まちづくりシンポジウムについてご報告をお願いいたします。

事務局：

（資料2に沿って説明）

○和田会長：

はい。ありがとうございます。沢山の方にご参加いただきましたけれども、何かご質問はございますか。29ページにある参加者ですが、他市在住の通勤・通学者が18パーセントですか。

○事務局：

参加者のうち、アンケートに答えていただいた方の属性です。当日は自由参加となっており、受付で全員の方にどちらからいらっしゃったのかは伺っていません。

○和田会長：

わかりました。

## 議題3 まちづくり市民ワークショップについて（報告）

○和田会長：

それでは続きまして議題の3、まちづくり市民ワークショップについてご報告をお願いいたします。

○事務局：

（資料3-1、資料3-2に沿って説明）

○和田会長：

はい、市民ワークショップと子どもワークショップのご説明をしていただきました。ご質問等があったら如何でしょうか。お寄せいただきたいと思えます。

**B委員：**

まちづくり市民ワークショップの記録を配っていただいたのですがけれども、配っていただいたから、出席者の方から更に何か反応というのはあったのでしょうか。

○事務局：

現在までのところ、ご意見は特にいただいておりません。

**B委員：**

わかりました。

**G委員：**

2つのワークショップ、非常に結構な取組みで積極的に評価したいのですが、特に子どもワークショップの方ですね。小学生が「私の住む理想のまち」、中学生が西東京市の将来がどうなっているかですか。これを知りたい訳です。ですから、子どもワークショップの方が非常にいいかなと思うのですが、残念ながら、市民ワークショップの方がいわゆる将来どうなっているかということが見えてこないのですね。というのは、中身を見てみると、大人だからこう

なってしまうのはやむを得ない点あるのかもしれないのですが、まちづくり市民ワークショップの資料3-1の2ページ目ですか、(5) 検討の手順、1.会議の目的云々について全員の共通認識を図る、2.市全体の現状の問題点・課題を洗い出す、3.あるべき姿に向けた取組みを検討するとなっています。実はあるべき姿とはどういうものなのか、実はこれを一番知りたい訳で、それが基本構想な訳で、ですから私が市民参加にこだわるのはその点なのです。あるべき姿を決めるのが市民の皆さんの訳で。子どもワークショップのところまさにこれが出ている。大人のところでは、あるべき姿がある意味所与のもの、前提としてとらえられてしまって、どういった取組みをすべきなのが先に来てしまっている。ですから、あくまで目的があって採るべき手段を決めるべきであって、実はこれが物事わかりすぎている大人の欠点でもある。目的というものをある程度据えてしまって、その手段の方から先に考えてしまう。ですから、生きる手段を考えなくてはいけないのだが、これはあくまで目的が決まってから。いわゆる最上位の目的は何かというと基本構想で決めるところのもの、あるべき姿ですね。ですから、子どもワークショップの方が良かったと思います。市民ワークショップの方はそういった点が欠けていて、残念だったなと思います。

○和田会長：

一回参加しましたけれど、現状があって、改善点みたいな形になっていたような気がします。

B委員：

確かにG委員にご指摘いただいて、はっと思ったのですけれど。ご年配の方が多かったこともあるのですけれども、これからどうなって欲しいというところをもっとうまく強調できればそういう方向に行けたのですけれども、余り私たちも気づかなかつたし、そういうアドバイスもできなかったし、何となく改善点はというのはありましたが、子どもの方は、明確な方向に進んでいますね。

○和田会長：

後で、いろいろなご意見を参加した方からいただけたらと思います。

I委員：

今、時間軸で、いろいろなシンポジウムだとかワークショップだとか子どもだとか、ものすごく努力されてすごいなと思っています。要するに、市民参加ということで、市民の声を聞いた計画を立てていこうという前提があるから。では、ワークショップもそうだし子どもも、いろいろな意見が出ているのを、実際に評価したり、これは採用しようとか、実際に精査するのは、一体どこが、誰がやるのかというのがわからない。それは庁内の委員会で行われる訳ですか。これだけいっぱい出てきていますよね、提案が。ワークショップなどで、いろいろな皆さんの声をそばで聞いていて、じゃあ、これをやろうとか、止めようとか、そういうことの判断、それを教えてほしい。

○事務局：

冒頭、会議の進め方というところで、本日、和田会長の方からもお話がございましたけれども、この間の市民参加手法の取組みを通じまして出てきたキーワードについては、後ほどの資料でお示しをさせていただくこととしております。また、市民参加の手法におきましては、当審議会からも、委員の皆様それぞれご出席いただいて、お感じになられたことも多々あるかと思しますので、それらの感想を含めて、基本構想に反映すべきキーワードについての時間でご議論いただければと存じます。

また、ご議論いただいたうえで一定程度当審議会としての共通するキーワードがございましたら、本日、事務局の方で持ち帰りまして、庁内での検討委員会などを踏まえまして、一次構

想案を文章化し、次回の会議のときにお示ししたいと考えております。

I委員：

ということは、あの席でもいろいろな方が最終的なところで、自分たちの言ったことについて答えを教えてほしいと言われていましたよね。そういう場に参加させてほしいと。

そういうことについてはどのように考えておられるのですか。

○事務局：

参加された皆様に、本日皆様にお配りしているものと同様の結果について、フィードバックをしております。ワークショップでの検討結果につきましては、ご自分の所属しているグループ以外のもも含め、すべての結果についてお送りしました。それを踏まえ、当審議会でも今後の審議ということになるかとは思いますが、それらがとりまとまった段階、来年になります。パブリックコメントや市民説明会などの機会を通して、どのように反映されたかについてご確認いただくこととなります。

I委員：

わかりました。

○和田会長：

基本的には、この審議会ですべてを採用する・しないというのは言い過ぎですが、基礎資料としながら、当審議会でも議論していくということになる訳です。

#### 議題4 基本構想案の第一次素案について

○和田会長：

それでは続きまして、基本構想案の第一次素案について進めさせていただきます。説明をお願いします。

○事務局：

(資料4-1、資料4-2、資料4-3に沿って説明)

○和田会長：

以上が議題4についての説明でございます。事務局から若干補足の発言を求められております。どうぞ。

○事務局：

1点補足させていただきます。資料4-1の中で、市民意見の把握ということで6つ挙げさせていただいておりますが、この他にも、9月に実施いたします高校生への意見聴取というのがございます。それにつきましては、次回第10回会議でご報告させていただきます。また、今年度施策評価も実施しておりますので、第11回会議でご報告させていただければと思います。よろしく願いいたします。以上です。

○和田会長：

この後の時間、ただいまの説明などを踏まえて意見交換を行い、どこまで共通認識が得られるか現段階では言えませんが、基本構想案に反映すべき「こういう点を大事にしたい」だとか、それぞれの皆様のご意見をいただけたらと思っております。

企業・団体ヒアリングは、かなり多くの皆さんに参加していただいております。とりまとめも、先ほどございましたが、そこから、或いはとりまとめ以外でもご意見がございましたらお寄せいただきたいと思います。それぞれ、全部含めてにしましょうか。

では、如何でしょうか。今までのとりまとめに関わらず、シンポジウム、市民ワークショップ、それらを含めてご意見がございましたらお願いいたします。

#### K委員

私は、まちづくり市民ワークショップの第1グループに出たんですが、市民が5人参加されていて、男性が2人、女性が3人ですね。この資料3-1のグループ1にありますように、非常に具体的な貴重な意見が出ました。

その背景には、女性3人ですが、学校とか公民館とか、中には引退された職員の方がいらっしゃいまして、その結果ですか、非常に具体的な話ができました。今、いろいろと項目がありますが、印象に残った点を2点だけ申し上げますと、この中で学校選択制を見直すべきだのご意見がございまして、年配の男性がおっしゃったのですけれども、地域のつながりが薄くなるとか、特に小学生には安全面に問題があるという意見がありました。

あと印象に残ったのは、学校の図書館と一般図書館の話が出たのですが、学校図書館については2校に1人しか司書がないので、ちょっと機能していない。図書館は、B委員からも話を聞いたことがあるのですが、他の自治体に比べて利用率が高いらしいのですが、ここも話を聞きますと、司書の方が正規職員ではないとか、図書館或いは他の公民館もそうですが、職員の方の雇用問題が、少し問題があるのではないかと盛んに言っておられました。

貴重なご意見が第1グループだけでもこれだけありますので、先ほどある委員がおっしゃっていましたが、具体的な質問事項について、西東京市の各課でどのように反映されるか、是非よろしくお願ひしたいと思ひます。感じたことは以上です。

#### ○和田会長：

はい。他には如何でしょうか。

H委員は子どもワークショップにも参加して、すべてに参加していただいて。

#### H委員：

私は熱心に参加しました。

奇しくも子どもワークショップの中学生の代表の2人が言っていますように、市民ワークショップは産業のところに入ったのですけれども、私が知っているという訳ではなくて、市民は余りにも知らないですね、市のことを。意見を言っているけれど、それはどこかで今やっていることではないの。まあ、私はしゃべらないですから。しゃべれないので、あれ、これはあそこでもうやっているのだけれど、どうして知らないの、という話題が多かったのです。ということは、広報がきっちりしていないとか、今までの施策を市民が知らないということですよ。そういうことが多くて。

子どもたちは、あちこち見学して具体的な見学の上に話を持ってきたから、非常に具体的に意見が言えた訳ですよ。でも、大人は、自分が普段思っているようなことを持っていて、お互いに話をする、お互いの持っている思惑が違うから、具体的なことについては摺りあわない訳ですよ。だから、知っているような、知らないような、やっているような、やっていないような、訳分からないような話をしている訳ですよ。これではちょっと進めないぞと思って見ていたのですけれども。

意外と市のことを知らなくて、思い込みがある市民が多かったかな、という意見なのですが。いや、具体的にはちゃんとご存じだとは思いますが、特に工業とか産業の方は、市民はほとんど関係がないのかなと思ひました。今からまちが発展するためには、市民がちょっとでも働く場所が必要だとか、私などは思っているのですけれども、そういう意識は薄れているとか、ないに等しいと。まちで働くという意味は全然念頭にないような方が、たまたまのグループだとは思ひます。だから、みんな年金で暮らすつもりかなとか思ひました。勝手な感想ですけれども、そういうことです。

○和田会長：

はい。他には如何でしょうか。

J委員：

私は7月に1回、協働のまちというところに参加させていただいたのですけれども、本当にいろいろな市民の方がいて、何のためのワークショップかなということをちゃんと把握しないで、ただ自分の意見を言いたいという方も沢山いたので、ここにいっぱい意見がありますけれども、それをどういう風に活かすかというのは難しい部分も多々あるかなと思いました。

ただ、西東京と聞いたら、ああこういうまちだよねというイメージをつくりたいというのは話されたので、私もそうだな、西東京ってこういうまちだよねという特徴を出したら、全国区になれるのかなと思うのですけれども。やはり、はっきりした特徴のないまちなんですよ。どうしても、武蔵野とか、そういうところと比べられると目立たないのかなとも思いますけれども。

私、この作文全部読んだのですけれども、子どもって素直で、感じたことを全部出して、とって子どもっていいなと思ったのですけれども。じゃあ、それをどういうふうに、それをそのまま載せるという訳にはいかないのですけれども、やはり活かしていかなければいけないかなと。これから先というのは、やはり若い人たちの考え方とか、そういうものを活かしていかなければいけないのではないかなと思いました。

自分も子育てしてきて、やはり若い人が住みやすいまちというのは、子育てしやすいまちとか、安全なまちとか、安心して暮らせるまちというのが一番だと思うので、そういうところもきちんと計画に入れたらいいのではと思いました。やはり弱者に優しいまちというのは住みやすいですよ。だから、そういうところをきちんと入れてもらいたいと思います。

○和田会長：

他にはいかがでしょうか。今、子育て、安心・安全、弱者に優しいまちというのが出ました。小学生の意見には障害者のことがありましたね。

J委員：

そうですね。そこで働く人たちを見たというのがいいと思いますね。

E委員：

あまり参加できなかったのですけれども、企業・団体ヒアリングで、教育関係、学校関係に参加しました。やはり、人材関係、活用できる人材の確保が難しいということが出ていました。実際には地域活動をやりたいが、やってくれる人が足りないとか、そういうことがありました。地域に関わろうという土壌をつくっていくことは、行政の方からやることだけではないのではないかな。やはり、そういう雰囲気づくりをやっていかなければいけないのかなと感じました。ただ、私も幼稚園をやっていますので、地域ぐるみで子育てができないと、非常に冷たい社会になるかなと思っています。もちろん、今までもやってきていることですが、それについては非常に大きいかなと思います。

今日、子どもワークショップの結果を見させていただいて、先ほどH委員も言ってらっしゃいましたけれども、ある程度論点が集中されているから、割と意見が出やすかったというところもあるかなと思います。私も記憶が定かでないのですが、小学校の頃、「私たちのまち田無」という本があって、その授業があったような気がします。最近ではどうなのかなと思っているのと、例えば、自然の中でそれについてどうしようということも、なんとなく子どもの頃、作文を書いたり、教えていたりということをやっていたような気がします。その中で何か意見が出てくるかなと。それこそ絞った形ではなくて、本当にほしいところとか、ああそういうのがあったんだというのが出てくるのは、この21人の中ではなくて、もっと広い中に出てくるのかという気がする。でも、今回の皆さんは非常にお利口ですばらしいので、参考になりま



す。

F委員：

質問とあわせてよろしいでしょうか。

先ほど、高校生の意見を聞かれるということで、ちょっと質問したかったのですが、どのように意見をとられるのかということ。先ほどやられるということを知ったのですが、どんな形でやられるのかということの一つ質問したかったのです。

○事務局：

9月に開催されます児童館、児童センター等のイベントにこちらから行きまして、そこに参加されている子どもたちに意見を聞きながら、また計画等につきましても概要を話しながら、アンケートという形でも出していければというふうに考えているところです。

質問項目等まだ具体的内容はないのですが、将来に向けての意見を聞けるアンケートにしていきたいとは思っています。

F委員：

二つ目ですが、評価という形がありましたが、11月頃というご説明が先ほどありましたが、それは出していただきたいなとは思いますが、前回の総合計画の中で、後期基本計画のところでも数値目標を設定していますよね。達成度とか、何パーセントになるとかいうような、評価の中にそういった資料も、年度途中ではありますが、分かるのは23年度までとは思いますが、そういった途中での経過といったものも出されるのでしょうか。

○企画部主幹：

施策評価の方は、今、庁内で行財政改革本部を中心に評価作業を進めている最中です。その中で、市民意識調査の結果も踏まえた形で、それと今おっしゃったような総合計画での目標の達成状況というのを総合的に踏まえた上で、今後の方向性を決めるというような形で、今、内部的には評価作業を進めている最中です。

また、個々の施策の達成の度合いということもあろうかと思いますが、今ここでご議論いただいているような内容を踏まえまして、更に次に総合計画にどうつなげていくかという視点も含めつつ、それぞれ6つの柱にどう結びつけるかということでもって行きたいと思えます。

F委員：

最後にシンポジウムの関係なのですが、今、私は福祉の分野に参加させていただいて、福祉の分野も高齢者や地域福祉など、いろいろ多様な分野に分かれておりましたので、様々な意見を出させていただいたことはとても良いことだと思います。ただ、先ほどH委員も言われたように、市民の方たちに正確な情報があつた上での意見がなされているかということ、十分知られていて意見を出されているのか、主観的な意見を出されているのか、情報が限られて仕方ない面もあろうかとは思いますが、主観的な意見を出されているのか、その点を一つ一つ精査すると、これはもう既にやっているものもあつたり、意見として言っているが違つていたり、取組まれてなかつたりとか、これはゆくゆく公になっていくので、その辺を行政の方でも正確な情報を出していくということも大切なことだなと感じた。

○和田会長：

今の点、これはもうやっていることだとか、どうですか。

○企画部長：

今日は広報の担当課長がいないのでお答えを私の方でしますが、様々な情報媒体で、正しい

情報で分かりやすくという点では、最大限努めているつもりです。ホームページも、以前、総理大臣賞をいただき、アクセス数も多いし、市報も工夫しています。それから、最近ではツイッターとか、まだフェイスブックは次の段階ですけど、市長への手紙を含めて、可能な限り市の現状についてお答えしているつもりです。ただし、より関心を持っていただく工夫というのは、少し冷静に見れば、ただ分かりやすく出せばいいというものではなく、そこら辺が難しいのですけれど、如何に関心を持っていただけるかというところなんです。そこが課題だと思っておりますが、現時点では可能な限り努力しているつもりですけれど、引き続きこういったご意見も伺っておりますので、持ち帰って、どういう対応ができるのか検討していきたいと思っております。

○和田会長：

他には如何でしょうか。

I委員：

二つほどあって、一つは、答申した趣旨では、今までの計画をベースにして今回の計画を考えようということだったと思う。そうすると、ワークショップについて言えば、7月の時に最初に思ったのですが、ここで6つの項目が出ていますよね。これをベースに市民の方の意見を聞いていった方が良かったのではないかなと思ったのです。僕は広告屋なので、ワークショップやブレインストーミングをしょっちゅうやっているのですが、最初は皆さん様子見なんですよ、お互い知らない人だから。相手がどういうことを言うかと。それで、時間が経過するほどだんだん声が出てきて、最後は時間が足らなくなっていくのがワークショップの性格なのです。

市の行政というのは基本的に、廃止するか、継続するか、改善するか、新規かの4つで、それを財政との関わりでどうするかということですよ。だから、現在の計画の内容はいいでしょうか、止めましょうか、新しいことをやりましょうかとやった方がもっと効率的にできたのではないかなと思いました。そうしないと、関心のある方向に話がついつい行ってしまうし、発言力のある人に他の人はどんどん引っ張られていきますね。そのために大切なのは各グループを引っ張って行く人の技量なのですが、ちょっと荷が重い感じがしました。悪気では言うのではなく、慣れてないなと思いました。だから、そういう面での市民の方々の不安感みたいなものをものすごく感じました。だから、最後にそれぞれグループが発表したときに、ああいう意見が出てしまう。何か不安になってしまって、自分の言ったことをどこまで受け入れてくれるのかといった疑念を持たれてしまうんですね。ともすれば市民は市の行政に対する不安感というのか、何か変な目で見がちなので、今後あのような会を実施される時は心して臨まれたらと思いました。

それから、もう一つ僕が気になったのは、市民参加や協働はほとんどの自治体で推進されておられるが、この定義を市としてもうちょっとしっかりつかまえておかないといけないかと思いました。今日、来る前に最初にいただいた市民参加条例を読んできたのですが、市民参加によって得られた市民の声をどう受け止めるとか、それを行政にどのようにいかしていくのかといったことが書かれていない。今後、市民が市民参加の意義や役割、効果をもっと身近に感じるようになると思いますので、市はそれにどう対応していくかをきちんと作っておかないと困ってくるようなことが起こらないかと危惧しています。

B委員：

H委員が言われたように、市民が産業とか働き場所とかそういうことに対して知識がないというのは感じました。田舎のまちだと、まちづくりをどうするかという活性化をどうするかという話になるのですが、このまちの人たちは余裕があるのかどうか分かりませんが、ちょっと違いましたね。キーワードとして、ふれあいみたいなのがすごく出てくる。それは恐らく、基本計画などでも当然採用していかなければいけないものですが。

子どもたちは、柳沢北口商店街が昔のように元気になってほしいとポーンと行くが、それが、大人の議論だとなかなかそういうふうに行かないのだなと感じました。

広報の問題ではないような気がするが、この市がやっている行政の質は、おべっかを使う訳ではないが、いろいろな面で高いと思う。近隣では、私は図書館のことしか知りませんが、他と比べると明らかに議論のレベルも高いし、やっているサービスも高い。市民の方が、それでも足りないというのはあるが、高い。それを市民の方は分かっていない。日本一ですよと延々言い続けるのもおかしな話ですし、必ずしも広報ではないような気がしているのですが、どうしたらいいのかなと思います。

もう一点だけ。今回もちょっと感じたが、先ほどもE委員が質問されたように、西東京市の教科書があって、4年生や3年生がちゃんと習っているのかどうか。もし、そうであれば、小学生の地域調べというような形で力をうまく活用していきたい。それは、今回の計画に活かしていきたいというだけではなく、子どもたちは将来を担っていく訳ですが、その子どもたちが西東京市というものをどのように自分の中に作っていくかということ。滋賀県の愛知川町というまちは、そこは図書館もやっているが、まちが子どもたちに発見させる。例えば、ここには蛍がいるとか、ここにはゲンゴロウがいるみたいな、そういう自然調査というものを100メートル単位くらいで、ここには喫茶店があって憩いの場所があるよというようなことを全部子どもたちに調査させて、まちのマップを作るのですが、そういう作業を通じて、うちのまちはどういう方向に向かっていくのかというのが出てくる。

子どもたちが言うことはやはり聞こうということになる。もう少し子どもたちの意見を活用する仕組みを考えていきたいと思う。

#### G委員：

ベッドタウンの住民の方は余り関心がないのかなと思っていたが、偏りはあるかもしれないが、非常に市のことに関心がある。特に子どもたちが西東京を意識するということは、驚きでもあり、ある意味大きな感動でもあった。

ここまで言うのは早急かもしれないが、地域市民としてはアイデンティティを求めるということになるかもしれないのですが、「変わる」というよりも「活かす」というところに目線が変わってきているのかなと思います。従来であれば基本計画は如何に変わるかだったが、震災が一つの経験になったかもしれないが、「活かそうよ」とか「見つけようよ」という、絆というのはその一つの例かもしれないが、そういったものが現れている。ただ、これが一種のファッションなのか、それとも時代のトレンドなのかは、十分吟味して位置づけなければいけないのでしようが。

#### 和田会長：

意見集約、とりまとめまでには至らないというところだと思います。

私も1回参加させていただいて、皆様からご意見があったように、市民が全般的に市のことを分かっているということはない訳です。ある意味自己主張だけというところもありましたが、それも一つの意見だということです。

また、テーマによってなかなか意見が出にくい。ですから、産業などは地域の中で産業的な基盤、働く場所があるというような方でないとなかなか出てこないのかなと思いました。

ただ、私が一番印象深かったのは、都市計画、上下水道、防犯防災のところに行ったのですが、20代と30代前半くらいの若い男性の方が3人くらいいて、その3人が西東京市がいいところだという認識を持っていて、その上でこれからまちづくりに何を出したらいいか、例えば駅ごとにコンセプトカラーを出すとか、具体的な意見が出て、とても勇気づけられました。若者の視点で、交通が便利な点をよりアピールできるような、そういうまちづくりのあり方はないのか、という意見がかなり出ており、そういう意味では、予定より人数は少なかったようですが、そういう中からピックアップできる建設的な意見をうまく出せたらいいのかなという感想を持ちました。

沢山の参加手法を使って、沢山の意見が出てきて、我々が読み込むのも大変ですし、既に市でやっていることなどもあるので、事務局としても少し精査していただいて、集められた意見を活用できるのかを更に検討いただいて、委員の皆様もご負担になるかも知れませんが、ぜひ目を通していただいて、より皆様の意見が反映できるように、次回に基本構想のたたき台が出てくるようではありますが、ぜひ積極的なご意見をお寄せいただけたらと思っております。意見交換はこれでひとまず終えたいと思います。

最後に、その他、事務局から何かございますか。

#### その他について

##### ○事務局：

次回の審議会につきましては、10月19日（金曜日）午後3時からを予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

##### ○和田会長：

皆さんお忙しいとは思いますが、どうぞご協力をよろしくお願い申し上げます。  
それでは本日の審議会を終了させていただきます。ありがとうございました。

（閉会）